

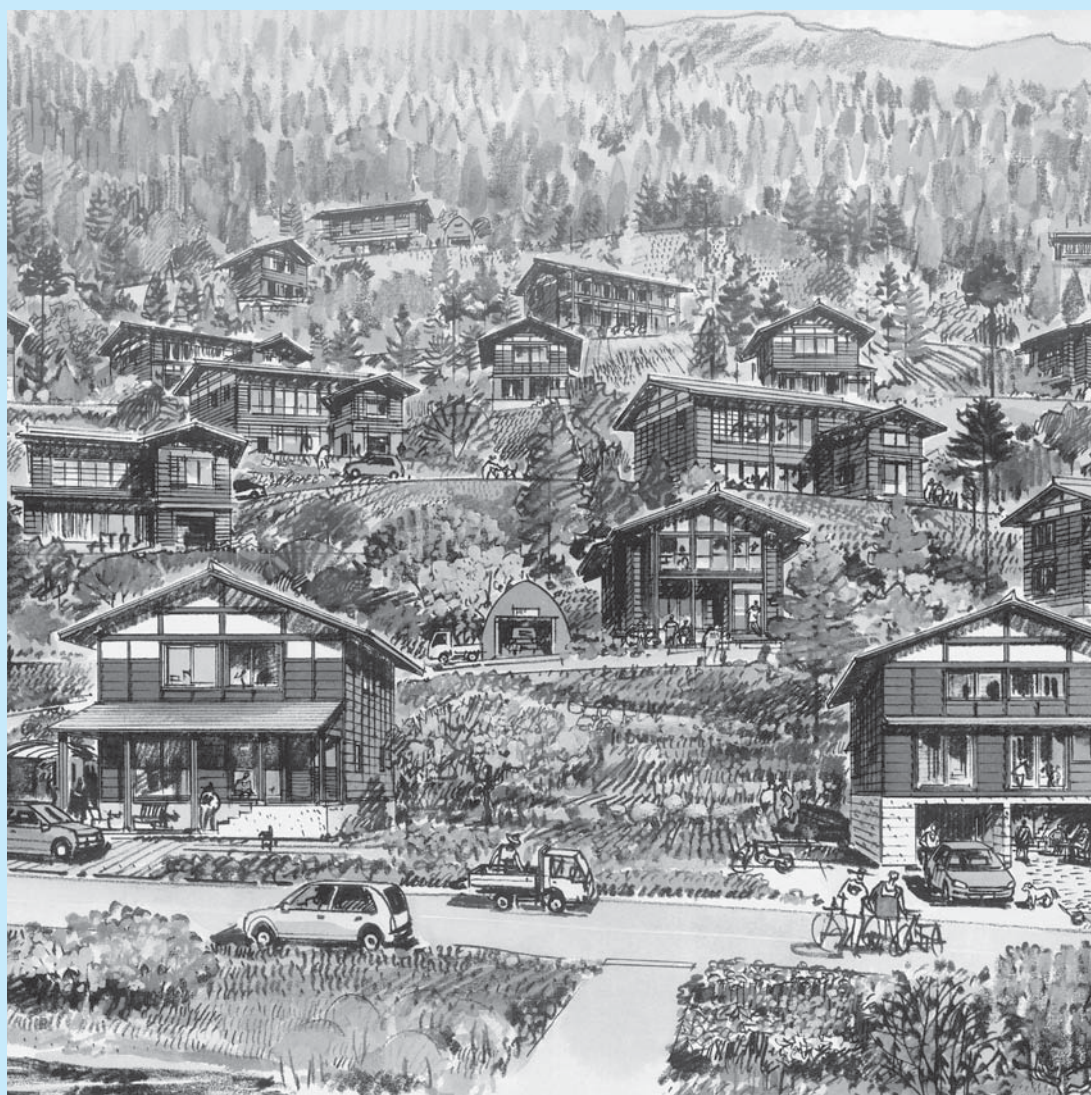
Annual Report of Researches on Development of Welfare Society

福祉社会 開発研究

MARCH, 2009

No. 2

2009年3月



「山古志の集落の復興イメージ」



TOYO UNIVERSITY

東洋大学福祉社会開発研究センター

CENTER for DEVELOPMENT of WELFARE SOCIETY, TOYO UNIVERSITY

平成20年度福祉社会開発研究センター研究概要

研究プロジェクト1

自治体福祉・保健計画と地域における福祉社会の形成

2009年3月

平成20年度 福祉社会開発研究センター 研究概要
 私立大学学術研究高度化推進事業オープン・リサーチセンター (人文社会系)
 「福祉社会開発の方法とその実践過程に関する総合的研究」プロジェクト1

自治体福祉・保健計画と地域における福祉社会の形成

CONTENTS

1. 社会福祉援助課題としての「社会的孤立」	福祉社会開発研究センター RA 後藤広史	……	7
2. DEPRESSIVESYMPTOMS AMONG AND CARE PROBLEMS FOR SENIORS IN JAPAN	プロジェクト1研究員 須田木綿子	……	19
3. 障害者領域における相談支援事業	福祉社会開発研究センター RA 相馬大祐	……	31
4. 民生委員の三つの活動領域とその課題 —民生委員活動に関する文献研究—	福祉社会開発研究センター RA 大村美保	……	39
5. 東京都における民生委員活動の統計的分析—単位民生児童委員協議会を中心として—	プロジェクト1研究リーダー 小林良二	……	47
6. 地縁型組織とテーマ型組織の連携に関する研究 —団地住民のNPO創出および自治会・管理組合との連携を事例として—	プロジェクト1研究員 加山 弾 研究協力者/福祉社会デザイン研究科 壺代直美	……	55
7. 「安全・安心」な福祉社会形成のあり方 (第1報)「生活安全条例」制定の実態と問題点—特に「防犯」について	プロジェクト1研究員 片平洌彦	……	65
8. サンパウロ、カロン地区における地域福祉活動の試み ～日伯援護協会による奄美事業所跡地プロジェクトの現状と課題～	プロジェクト1研究員 紀 葉子	……	71
9. 帯広・十勝福祉社会化システムとしての各種団体	プロジェクト1研究員 大坪省三	……	81
10. 低所得母子世帯の生活実態から見る社会福祉課題の検討 —千葉県八千代市生活保護受給母子世帯への調査から—	プロジェクト1研究員 森田明美 プロジェクト1客員研究員/東京都石神井学園 清水冬樹	……	93
11. ソーシャルワークにおける利用者参加の可能性について —八千代市母子生活保護世帯自立支援プログラムにおけるツールの開発を通じて—	プロジェクト1客員研究員/江戸川大学総合福祉専門学校 小林恵一	……	105

プロジェクト1 研究組織

プロジェクト番号	研究者名	所属・職	研究プロジェクトにおける研究課題
プロジェクト代表	古川 孝順	福祉社会デザイン研究科長 (ライフデザイン学部長)	福祉社会形成論
プロジェクト1-1	秋元 美世 天野 マキ 金子 光一 小林 良二 須田木綿子 片平 洌彦 加山 弾 川原 恵子	福祉社会デザイン研究科(社会学部)教授 福祉社会デザイン研究科(社会学部)教授 福祉社会デザイン研究科(社会学部)教授 福祉社会デザイン研究科(社会学部)教授 福祉社会デザイン研究科(社会学部) 教授 福祉社会デザイン研究科(社会学部) 教授 社会学部講師 社会学部講師	自治体行政計画論 高齢者福祉論 社会福祉 社会福祉組織論 ※プロジェクト1-1の統括 非営利組織論 社会医業福祉学 地域福祉論 貧困論
プロジェクト1-2	大坪 省三 紀 葉子 西澤 晃彦 松本 誠一 西野 理子 村尾祐美子	福祉社会デザイン研究科(社会学部) 教授 福祉社会デザイン研究科(社会学部) 教授 福祉社会デザイン研究科(社会学部) 教授 福祉社会デザイン研究科(社会学部) 教授 福祉社会デザイン研究科(社会学部) 准教授 社会学部講師	都市社会学、交通社会学 ※プロジェクト1-2の統括 地域社会システム論 都市社会学、階級 階層構造論 社会人類学 家族社会学、ライフコース論 労働社会学、ジェンダー論、社会階層論
プロジェクト1-3	森田 明美	福祉社会デザイン研究科(社会学部) 教授	児童福祉政策論 ※プロジェクト1-3の統括

平成20年度福祉社会開発研究センター研究概要

研究プロジェクト2

中山間地域の振興に関する調査研究

—中越地震の被災地・長岡市山古志地区の復興計画の事例に即して—

PROJECT 2

2009年3月

平成20年度 福祉社会開発研究センター 研究概要
私立大学学術研究高度化推進事業オープン・リサーチセンター (人文社会系)
「福祉社会開発の方法とその実践過程に関する総合的研究」プロジェクト2

中山間地域の振興に関する調査研究

—中越地震の被災地・長岡市山古志地区の復興計画の事例に即して—

CONTENTS

1. [研究ノート] 被災地における仮設市街地の計画とその有効性について —長岡市陽光台団地の事例調査を通じて—	プロジェクト2研究リーダー 東洋大学大学院福祉社会デザイン研究科博士前期課程	内田雄造 青柳 聡	…… 117
2. 山古志の農業 (第2報)	プロジェクト2客員研究員／農業生物学研究室主宰	明峯哲夫	…… 125
3. 中越大震災からの創造的復興について ～持続可能な地域再生へ向けて～	プロジェクト2研究協力者／新潟県長岡振興局企画振興部参事	渡辺 斉	…… 135
4. 徒歩による観光を目的とした山古志地区における景観資源の調査と分析	プロジェクト2研究員	小瀬博之	…… 141
5. 「山古志の地域特性をふまえた在宅介護支援の方向性を探る」 —アンケートと聞き取り調査から家族会の立ち上げへ—	プロジェクト2研究員 研究協力者／ライフデザイン学部	渡辺裕美 川上侑香	…… 149
6. 山古志地域の農家民宿などの特徴について —2008年7月までの宿泊体験による報告—	プロジェクト2客員研究員	仁瓶俊介	…… 157
7. 十二山ノ神の信仰と祖霊観 (中)	プロジェクト2研究員	菊地章太	…… 169
8. 被災住民のメンタル・クライシスと葬送文化の変容 —新潟・山古志住民の事例から—	プロジェクト2研究員	井上治代	…… 175
9. 山古志地区在宅高齢者の健康関連QOLおよび身体的生活機能	プロジェクト2研究員	神野宏司・岩本紗由美・齊藤恭平・坂口正治・松尾順一	…… 181
10. 震災前後の山古志地区の営農の状況と仮設住宅での農作業の実態	プロジェクト2研究リーダー プロジェクト2研究協力者／奈良県立大学地域創造学部 プロジェクト2研究協力者／東京工業大学社会理工学研究科特別研究員	内田 雄造 古山周太郎 清野 隆	…… 187

プロジェクト2 研究組織

グループ	研究者名	所属・職	研究プロジェクトにおける研究課題
センター長	古川 孝順	福祉社会デザイン研究科委員長 ライフデザイン学部教授	福祉社会形成論
生活自立支援研究	渡辺 裕美 高野 龍昭 神吉 優美 白石 弘巳 北野 誠一 柴田 範子 的場 智子	(ライフデザイン学部教授) (ライフデザイン学部講師) (ライフデザイン学部講師) (ライフデザイン学部教授) (ライフデザイン学部教授) (ライフデザイン学部講師) (ライフデザイン学部講師)	高齢者介護支援方法論 ソーシャルワークとケアマネジメント 在宅介護と施設介護 精神保健福祉 地域福祉 在宅福祉 医療社会学
次世代育成支援研究	森田 明美 角藤智津子 中原 美恵 林 浩康	(社会学部教授) (ライフデザイン学部教授) (ライフデザイン学部教授) (ライフデザイン学部教授)	次世代育成支援計画 地域伝承とわらべ歌 母親支援 家族支援方法論
健康自立支援研究	松尾 順一 坂口 正治 神野 宏司 岩本紗由美 齊藤 恭平	(ライフデザイン学部教授) (ライフデザイン学部教授) (ライフデザイン学部准教授) (ライフデザイン学部講師) (ライフデザイン学部准教授)	スポーツと健康管理 レクリエーション 健康科学 リハビリテーション ヘルスプロモーション
住生活・住宅研究	水村 容子 秋山 哲一 浅井 賢治 上杉 啓 古賀 紀江 二瓶 俊介	(ライフデザイン学部准教授) (工学部教授) (工学部講師) (客員研究員) (客員研究員) (客員研究員)	高齢者・障害者の住まい方 住宅建設システム 住宅デザイン 住宅構法 高齢者の住宅計画 集落及び住宅の外観目視調査
地域産業研究	内田 雄造 青木 辰司 嵩 和雄 明峯 哲夫	(ライフデザイン学部教授) (社会学部教授) (客員研究員) (客員研究員)	住生活、地域計画、福祉システム グリーンツーリズム グリーンツーリズム 中山間地域の営農
景観計画研究	小瀬 博之 尾崎 晴男	(工学部准教授) (工学部教授)	景観計画 交通計画
地域文化研究	菊地 章太 高橋 直美 井上 治代	(ライフデザイン学部教授) (ライフデザイン学部准教授) (ライフデザイン学部准教授)	地域文化論 地域の伝承文学 宗教社会学（老いと死の社会学）

平成20年度福祉社会開発研究センター研究概要

資 料

研究概要／活動報告／議事録

資
料

2009年3月

福祉社会開発研究センター活動報告

1 合同活動の報告

(1) 第1回合同ワークショップ

開催日時：2008年6月9日（月）10時から12時

開催場所：東洋大学白山キャンパス 第一会議室

参加者：20名程度

開催内容：プロジェクト1より、「地域包括支援センターの課題—東京都A市の調査から」、「母子世帯の自立支援プログラム作成のための基礎調査が明らかにしたこと—千葉県Y市の調査から」の研究報告を行った。プロジェクト2からは、「山古志復興計画をめぐって—研究グループの関わり方を考える」、「山古志住民の住宅と住生活—生活の再構築に関する考察」の内容の研究報告が行われた。

(2) 第2回合同ワークショップ

開催日時：2008年12月10日（水）

開催場所：東洋大学白山キャンパス 第一会議室

参加者：20名程度

開催内容：プロジェクト1より、小林研究員、紀研究員、森田研究員がそれぞれ報告した。小林研究員は、「地域における福祉ネットワークの形成について」というテーマで報告を行った。また、紀研究員は「サンパウロ、カロン地区における地域福祉活動としての学童保育の試み—日伯援護協会による奄美事業所跡地プロジェクトの現状と課題」について、森田研究委員は「母子世帯の地域生活での孤立化と自立支援の課題」についてそれぞれ報告が行われた。さらに、プロジェクト2からは内田研究員と神野研究員より報告が行われた。内田研究員からは「被災地における仮設市街地の必要性和その計画について—長岡市陽光台団地の事例調査を通じて」というテーマで報告が行われた。神野研究員からは「山古志地区在宅高齢者の健康関連QOL」というテーマで報告が行われた。

2 プロジェクト1活動報告

(1) 第1回白山グループ研究会

開催日時：2008年5月29日 13時から14時30分

開催場所：東洋大学白山キャンパス 第一会議室

参加者：10名

開催内容：プロジェクト1の各グループの研究交流を図ることを目的とし、各グループに研究の進捗状況などを報告していただく研究会を企画した。一回目はプロジェクト1-3の森田研究員と清水研究員から「母子世帯の自立支援プログラム作成のための基礎調査が明らかにしたこと—Y市の調査から」というテーマで報告があり、その後、議論した。

(2) 第1回ソーシャルポリシー研究会

開催日時：2008年6月5日（木）10時30分から12時

開催場所：東洋大学白山キャンパス

福祉社会開発研究センター（20813室）

参加者：8名

開催内容：園田恭一編の『社会福祉とコミュニティ—共生・共同・ネットワーク』の第一章、第五章の要旨を報告し、議論した。

(3) 第2回白山グループ研究会

開催日時：2008年6月26日（木）13時から14時30分

開催場所：東洋大学白山キャンパス 第三会議室

参加者：8名

開催内容：プロジェクト1-2の大坪研究員、松本研究員、村尾研究員よりそれぞれの研究について報告があった。まず、松本研究員からは「帯広十勝の外国人と社会統合（ソーシャルインテグレーション）—韓国・朝鮮人を中心に」というテーマで報告があった。次に、村尾研究員から「中小企業の採用活動と職安の連携—十勝地域における新しい試み」というテーマで報告があり、

最後に大坪研究員より「帯広市福祉文化化システムのありようーその1・概況把握」というテーマで報告があり、その後、議論した。

(4) 第2回ソーシャルポリシー研究会

開催日時：2008年7月3日（木）10時30分から12時
開催場所：東洋大学白山キャンパス福祉社会開発研究センター（20813室）

参加者：6名

開催内容：園田恭一・西村昌紀編『ソーシャルインクルージョンの社会福祉ー新しい〈つながり〉を求めて』の第二章の要旨を報告後、議論した。

(5) 第3回白山グループ研究会

開催日時：2008年7月10日（木）13時から14時30分
開催場所：東洋大学白山キャンパス 第一会議室

参加者：7名

開催内容：プロジェクト1-1の小林研究員、後藤RAからそれぞれ報告があった。まず、後藤RAより「プロジェクト1-1の研究計画と文献研究ー社会的孤立を中心として」という報告があった。その後、小林研究員より「民生委員と地域活動」というテーマで報告があり、議論した。

(6) 第3回ソーシャルポリシー研究会

開催日時：2008年7月17日（木）10時30分から12時
開催場所：東洋大学白山キャンパス福祉社会開発研究センター（20813室）

参加者：8名

開催内容：園田恭一・西村昌紀編『ソーシャルインクルージョンの社会福祉ー新しい〈つながり〉を求めて』の第九章、第十章の要旨をそれぞれ報告後、議論した。

(7) 第4回白山グループ研究会

開催日時：2008年10月30日（木）13時30分から15時
開催場所：東洋大学白山キャンパス 第一会議室

参加者：6名

開催内容：プロジェクト1-1の小林研究員、大村RAより「民生委員活動の実態について」というテーマでそれぞれ

の報告があり、その後、議論した。

(8) 第4回ソーシャルポリシー研究会

開催日時：2008年10月23日（木）10時30分から12時
開催場所：東洋大学白山キャンパス福祉社会開発研究センター（20813室）

出席者：8名

開催内容：マイケル・エドワーズ著の『「市民社会」とは何か』の第一章、第二章の要旨を報告し、議論した。

(9) 第5回ソーシャルポリシー研究会

開催日時：2008年11月13日（木）10時から12時
開催場所：東洋大学白山キャンパス 5503教室

出席者：6名

開催内容：ルーテル学院大学秋貞由美子先生をお招きして、「民生委員制度の今後のあり方について」というテーマでご講演頂いた。

(10) 第5回白山グループ研究会

開催日時：2008年11月20日（木）13時30分から15時
開催場所：東洋大学白山キャンパス 5303教室

出席者：8名

開催内容：プロジェクト1-3の小林研究員より「生活保護母子家庭支援における当事者参加と支援のマニュアル化の可能性」というテーマで現在の研究状況について報告があり、その後、議論した。

(11) 第6回白山グループ研究会

開催日時：2008年12月18日（木）13時30分から15時
開催場所：東洋大学白山キャンパス 第一会議室

出席者：8名

開催内容：プロジェクト1-2の松本研究員、村尾研究員より報告いただいた。松本研究員からは「十勝帯広のコリアンー仕事と社会活動について」というテーマで、村尾研究員からは「十勝地域の中小企業の採用活動におけるマッチング外部化の試み」というテーマでそれぞれ報告があり、その後、議論した。

3 プロジェクト2 活動報告

(1) 地域産業研究グループ活動報告

I. 研究メンバー

総括

内田 雄造 東洋大学ライフデザイン学部教授

学内研究員

青木 辰司 東洋大学社会学部教授

阿部英之助 東洋大学非常勤講師

学外研究員

明峯 哲夫 農業生物学研究室主宰

仁瓶 俊介 一級建築士

嵩 和雄 財団法人学びやの里主任研究員

研究協力者

渡辺 斉 新潟県長岡振興局企画振興部参事

齋藤 隆 長岡市山古志支所産業振興課長

佐々木康彦 財団法人山の暮らし再生機構上席スタッフ

古山周太郎 奈良県立大学地域創造学部講師

研究補助員

清野 隆 東京工業大学特別研究員

青柳 聡 東洋大学大学院生

II. 研究活動

1. 研究会

◆第12回地域産業研究グループ研究会(20年度第1回)

①日 時 4月17日(木) 14時～17時

②場 所 東洋大学朝霞キャンパス

大学院・研究棟2階大学院演習室

③参加者

学内研究員 内田雄造

学外研究員 明峯哲夫・仁瓶俊介

研究協力者 佐々木康彦

研究補助員 青柳聡

④臨時参加者 百崎満晴 (NHK放送技術局)

◆第13回地域産業研究グループ研究会(20年度第2回)

①日 時 5月15日(木) 13時～16時

②場 所 東洋大学朝霞キャンパス

大学院・研究棟2階大学院演習室

③参加者

学内研究員 内田雄造

学外研究員 明峯哲夫・仁瓶俊介・嵩和雄

研究協力者 渡辺斉・齋藤隆

研究補助員 青柳聡

④臨時参加者 百崎満晴 (NHK放送技術局)

◆第14回地域産業研究グループ研究会(20年度第3回)

①日 時 7月3日(木) 13時～16時

②場 所 東洋大学朝霞キャンパス

大学院・研究棟2階大学院演習室

③参加者

学内研究員 内田雄造

学外研究員 明峯哲夫・仁瓶俊介

研究協力者 古山周太郎

研究補助員 青柳聡

◆第15回地域産業研究グループ研究会(20年度第4回)

①日 時 8月18日(木) 13時～16時

②場 所 東洋大学朝霞キャンパス

大学院・研究棟2階大学院演習室

③参加者

学内研究員 内田雄造

学外研究員 明峯哲夫・仁瓶俊介・嵩和雄

研究協力者 渡辺斉・佐々木康彦・古山周太郎

研究補助員 青柳聡

◆第16回地域産業研究グループ研究会(20年度第5回)

①日 時 9月11日(木) 14時～17時

②場 所 東洋大学白山キャンパス

2号館3階第1会議室

③参加者

学内研究員 内田雄造

学外研究員 明峯哲夫・仁瓶俊介

研究協力者 齋藤隆・佐々木康彦・古山周太郎

研究補助員 青柳聡

④臨時参加者 高城順 (部落解放同盟東京都連合会品川支部執行委員)

◆第17回地域産業研究グループ研究会(20年度第6回)

①日 時 10月9日(木) 13時～16時

②場 所 東洋大学朝霞キャンパス
大学院・研究棟2階大学院演習室

③参加者

学内研究員 内田雄造
学外研究員 明峯哲夫・仁瓶俊介
研究協力者 渡辺斉・齋藤隆・佐々木康彦
研究補助員 清野隆・青柳聡

④臨時参加者 百崎満晴(NHK放送技術局)
佐藤正徒(長岡市山古志支所産業課農
林係)

◆第18回地域産業研究グループ研究会(20年度第7回)

①日 時 12月11日(木) 13時～16時

②場 所 東洋大学朝霞キャンパス
大学院・研究棟2階大学院演習室

③参加者

学内研究員 内田雄造
学外研究員 明峯哲夫・仁瓶俊介・嵩和雄
研究協力者 渡辺斉・齋藤隆・佐々木康彦
研究補助員 清野隆・青柳聡

2. 関連調査

◆第1回山古志の地域産業キーパーソンへのヒアリング
調査

①日 時 2008年6月6日～8日

②場 所 長岡市山古志地域

③参加者

学内研究員 内田雄造
学外研究員 明峯哲夫・仁瓶俊介・嵩和雄
研究協力者 渡辺斉・齋藤隆・佐々木康彦・
古山周太郎
研究補助員 青柳聡

④臨時参加者

五十嵐豊(財団法人山の暮らし再生機構)

⑤対象者 山古志地域住民5名

◆山古志ふたたび展視察

①日 時 2008年7月12日～13日

②場 所 新潟県立歴史博物館

③参加者

学内研究員 内田雄造
学外研究員 明峯哲夫
研究協力者 佐々木康彦
研究補助員 青柳聡

◆山古志地域視察

①日 時 2008年10月22日

②場 所 長岡市山古志地域

③参加者

学内研究員 内田雄造
学外研究員 仁瓶俊介
研究補助員 清野隆・青柳聡

◆東京都中央卸売市場食肉市場視察

①日 時 2008年11月27日

②場 所 東京都中央卸売市場食肉市場

③参加者

学内研究員 内田雄造
学外研究員 明峯哲夫・仁瓶俊介
研究協力者 渡辺斉・齋藤隆・佐々木康彦
研究補助員 清野隆・青柳聡

◆第2回山古志の地域産業キーパーソンへのヒアリング
調査

①日 時 2009年1月15日～16日

②場 所 長岡市山古志地域

③参加者

学内研究員 内田雄造
学外研究員 明峯哲夫・仁瓶俊介
研究協力者 渡辺斉・齋藤隆
研究補助員 青柳聡

⑤対象者 山古志地域住民4名

(2) 地域文化研究班活動報告

1. 研究メンバー

井上治代、高橋直美、菊地章太

2. 研究の目的

本研究班は、山古志地域に伝承された文化と人々の生活のありようを社会学・文学・宗教学の立場から多面的に理解していくことをめざしている。具体的な取り組みとしては、まず被災者の方々が負った心の傷とそこからの回復がどのようになされてきたのかをできるだけ多くの方からお聞きし、災害を通じて再認識された山古志住民としてのアイデンティティとは何かを探ってみたい。そのうえで、中山間地という自然条件および中越という歴史的環境のなかで育まれてきた文化の特性を理解し、人々の心を山につなぎとめているものは何かを明らかにすることを目的とする。山古志地域の伝統的な文化や生活を把握することから、さらに進んで地域の活性化につながる文化活動の可能性を模索していくことが、本研究班のめざす課題である。

3. 研究経過

上記のような共通の目標のもとに、昨年度に引き続き研究班のメンバーが個々に関心をいさぐテーマについて調査研究を継続して行なった。

井上は社会学の立場から、被災地の人々が経験した心の危機と、それを乗り越えていく過程での住民意識の確立について考察している。とりわけ本年度は、仮設住宅での生活を経たことで、葬送文化がどのように変容したのかを聞き取り調査にもとづいて明らかにしようとした。これは被災による住民の心的なダメージを分析し、その受容と回復がどのようにされていったかを明らかにしていく試みの一環である。災害を契機として再認識された山古志住民としてのアイデンティ

ティとは何かを探ることは、今後の復興に向けての精神的な足がかりになるのではないと思われる。

高橋は文学研究の立場から、山間農村部の口碑伝承に関する比較研究を行なっている。新潟県は口承文芸の宝庫とよく、基本的な資料のひとつに『北越奇談』がある。『山古志村史』と『北越奇談』に語られた俗信や妖怪談について、同じ中山間地域である岩手県遠野市に伝わる物語との比較検討をもとに、山村にまつわる伝承や風土とのかかわりを明らかにしていく試みである。本年度は関連資料の収集と解説を継続して行なった。

菊地は宗教学の立場から、山古志における山ノ神信仰について調査を行なっている。上信越は東北地方の日本海側とならんで十二山ノ神信仰のさかんな地域であるが、そのなかにあつて山古志のそれは、他の地域とどのような共通性を持ち、またどのような独自性を示しているのか。山古志における山ノ神信仰の過去と現在をたずねることにより、たえまなく続いてきた信仰を成り立たせているところの祖霊観のありようを探っていく試みである。本年度は旧山古志地区にのこるいくつかの十二神社について現地調査を行ない、中越地震後の現状を把握しようとしてきた。

4. 活動状況

昨年度に引き続き、各自が関心をいさぐテーマについて個々に研究を行なうことをめざした。

2008年10月31日から11月1日まで、井上と菊地は長岡市旧山古志村地区を訪問した。井上の聞き取り調査を補助するため、ライフデザイン学部3年次生の福村弥生が同行した。

10月31日(金)は、まず長岡市村松町岩谷の真言宗圓融寺を訪れ、住職の戸野倉信道氏に御先導いただいて、太田川に沿った参道を登り、十二神社の現状を調査した。続いて旧山古志村虫亀地区の諏訪神社を参拝した。井上は周辺墓地を調査し、菊地は合祀されている十二神社の写真撮影を行なった。さらに同地区にある十二山ノ神の石碑を調査した。本年2月19日に訪れた

ときは、積雪のため石碑の上半分しか見ることができなかったが、今回は全体を撮影することができた。次に種芋原中野地区の十二山神社を参拝した。続いて楢木地区の十二神社を参拝した。同地区は中越地震のあと集落全体が移転したため、冬期は道路が閉鎖されており、前回は訪れることができなかった。周辺の畑は今も耕作が続けられており、神社の境内も荒れはてた様子はなかった。祭礼がなお継続しているのかどうかは確認できなかったので、今回はその点を明らかにしたいと思う。続いて梶金地区の十二神社を参拝したあと、長岡市役所山古志支所に向かい、地域振興課長の齋藤隆氏にお会いして調査資料をいくつかご提供いただいた。

翌日の11月1日（土）は、井上は福村とともに旧山古志村竹沢地区において聞き取り調査を実施し、仮設生活を経たのち葬送のありかたがどのように変容したのかを明らかにしようと試みた。さらに同地区にのこる火葬場跡を見学し、続いて長岡市内の葬祭センターを訪ねて、仮設住宅で生活した人々がどのように葬儀をいとなんだかを担当者に質問した。菊地は小松倉地区において聞き取り調査を実施し、十二山ノ神をどのように屋敷内鎮守としてまつているのかを明らかにしようと試みた。さらに同地区において八海山修験にかかわる仏堂と石碑を調査して写真撮影を行なった。現地での調査を終えた後、井上圓了の生誕地である長岡市浦の真宗慈光寺を訪れ、東京都中野区の日蓮宗蓮花寺より分骨された学祖の墓に詣でた。

今回も現地での調査にあたり齋藤隆氏よりご高配をいただいた。記して感謝申しあげたい。

本年度は、上記の活動をもとに井上がその研究成果の一部を「仮設生活を通した葬送文化の変容？新潟・山古志の事例研究」と題し、菊地は「十二山ノ神の信仰と祖霊観（中）」と題して、オープン・リサーチの研究報告書である『福祉社会開発研究』第2号にそれぞれ執筆した。

5. 今後の課題

このような経過をふまえ、来年度はさらに調査地域を拡大して、個々の研究テーマの深化をはかりたいと考えている。その際に、山古志地域と同じような山間部に暮らす人々の意識、そこでの信仰や伝承についても注意する必要があるだろう。長野県伊那市や岩手県遠野市などとの比較を通じて、他地域との共通性や山古志の独自性を理解していくことを今後の課題として設定したいと思う。



「山古志の集落の復興イメージ」
作成：(株)アルセッド建築研究所

